

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 29 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24330154

研究課題名(和文)現代社会分析と社会学における Visual Turn

研究課題名(英文)Analysis of contemporary society and visual turn of sociology

研究代表者

油井 清光 (YUI, KIYOMITSU)

神戸大学・人文学研究科・教授

研究者番号：10200859

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：現代社会における人々のコミュニケーションのあり方の変容の問題として、ビジュアルなものによるそれが重要性や関連性を増しつつある、という認識に基づきその現状を分析解明すると共に、その学問的分析方法としての社会学における方法論的アプローチの変容についても併せて検討した。

こうした現代社会の基本構造の変容を分析するためには、学問的方法論としての社会学的アプローチも変貌せざるを得ず、またそのように更新された新たな方法をもって、社会分析に臨むべきことが、基本的な認識となっている。

研究成果の概要(英文)：In the research the subject of fundamental transformation of the style of people's communication has been focused, especially that of growing significance and relevance of visual communication. To do so we have to reconsider the transformation of academic approach, sociological framework for analyzing it as well. Therefore the research has been two holded project of 1. reconsideration of the style of people's communication and 2. reconderation of renewal of sociological approach towards it, that is viaul turn of sociology.

研究分野：社会学

キーワード：visual turn 現代社会 構造変容

1. 研究開始当初の背景

「現代社会分析と社会学における Visual Turn」と題する本研究活動において、当初は主に香港大学、イェール大学等を中心とした研究計画において出発しつつも、ヤゲウォ大学、インスブルック大学、エトベシュ・ロランド大学、ブカレストのカンテミール・キリスト教大学等、中欧および東欧の諸大学との連携、および南オーストラリア大学との連携による研究遂行へと進展した。

世界の社会学の最前線では、社会学理論の visual turn の議論が、イェール大学の J.アレクサンダーやトロント大学の F. Kurasawa らによって展開してきているところであり、本研究はそうした流れに倣差すものであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「表出革命 expressive revolution」(T.Parsons) 以後の幾つかの社会学理論を組合せて、現代社会分析に適用する方法を探求することであった。幾つかの社会学理論とは主に、1. 社会学における Visual Turn、2. メディア論的展開、の2つによる「社会的なもの」の構成可能性を検討するものを指す。これらは共通価値による統合理論よりは、1. 表出的レベル、2. 感情的レベル、という2つの方向性を重視する点に特性がある。パーソンズ以後、その理論を踏まえながら乗り越えて、上記2つの方向性への議論が進展している。本研究は、これらの理論を整理しつつ再構成して、視覚的表現としてのマンガ・アニメなどの経験的事例の分析に応用し、現代社会研究の用具としての可能性を明らかにすることを目指すものであった。

3. 研究の方法

本研究では、前述した目的を達成するために、日本でのマンガ・アニメの受容パターン、受容意識、コスプレ、ファンダム活動に関する、パイロット・アンケート調査を、大学内で学生を対象としてまず試行した。試行結果をフィードバックして、香港大学等においてワークショップを、また、海外の諸大学においても関連のワークショップ等を開催した。ワークショップ全体を2部に分け、1部では欧米研究者の学説の再検討により本研究の進展を図り、2部では米国での経験的調査研究の方法について検討した。

神戸大学の「研究会」において、日本で行った調査のデータ解析を開始し、香港での調査に使用する調査票を設計し、マンガ・アニメの受容パターン、受容意識、コスプレ、ファンダム活動に関する調査を香港で実施する。ワークショップでは、理論的・仮説的研究の再検討を行うと共に、日本で実施した調査結果について発表した。

本研究計画を遂行する方法の中心は、3大学(神戸大学・香港大学・イェール大学)による連続ワークショップを展開しながら、研究と調査を進めていくことにあったが、さらに、ヤゲウォ大学、エトベシュ・ロランド大学等との協働研究が加わった。「研究会」組織をたちあげ、それに2つの班を設け、1. 理論・仮説研究、2. そのマンガ・アニメ(という visual 表現) 調査への援用のためのリサーチ・プログラムの構築と調査実施をそれぞれ担当した。理論仮説の構築、リサーチ・プログラムの設定も3か国ワークショップの展開に合わせて進展させ、実態調査も3か国において実施した。こうした研究体制により日本での研究の進展がそのまま、世界での研究発展の動向の有機的な一部であるような体制に近づくことを目指した。こうした研究実施計画については、香港大学・現代語現代文化学部のリーダーである王向華教授及びイェール大学文化社会学センターの所長である J. Alexander の同意を得て進めた。

研究計画全体を遂行する枠組みとして「現代社会と Visual Turn 研究会」(以下「研究会」)を設置した(全体統括・油井)。同「研究会」は理論、仮説、リサーチ・プログラムの検討を開始し、全体の具体的実施計画をふくめて、年度前半期終了までに計画案を策定した。

4. 研究成果

日本社会学会、日本社会学史学会、日本社会学理論学会などの国内の諸学会をはじめ、海外においても、研究代表者、研究分担者、調査研究補助者等が、成果を報告した。

平成25年度、2013年度には、5月2~6日の間、神戸大学ブリュッセルオフィスにおいて現代日本文化についてのワークショップを開催した。また5月9日、コペンハーゲン大学より Anders Bloc 講師を神戸大学に招き、ウルリッヒ・ベックと行っている共同研究のテーマであるグローバル・リスクに関する講演会を開催した。10月11日には、神戸大学ブリュッセルオフィスにおいて第二回目のワークショップを開催した。10月18日、台北市の国立台湾大学において若手研究者ワークショップを開催した。11月8日には、ブリュッセルオフィスにおいて第三回目のワークショップを開催した。また12月21日、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学においてシンポジウムを開催した。さらに2014年2月8日、北京大学においてワークショップを開催した。3月18日-22日の間、オーストラリア・アデレード市の南オーストラリア大学においてシンポジウムで報告すると共に、その後同大学のホーク研究所において講演した(Visual Communication in the Case of Fukushima)。

この間、国際日本文化研究所の共同研究者としてこの間2回会合に出席した。また日本

観光研究学会関西支部・第10回意見交換会で講演した。さらに、European Association for Japanese Studies の大会で報告した (Visual Turn of Sociology and Japanese Animation and Manga)。神戸大学において学生を対象としたアンケート調査を試行した。そして、出版物としては、『現代社会のヴィジュアル・ターンと東アジアの文化変容』『モダニティの変容と公共圏』(京都大学学術出版会)2014年1月、pp.243-268を刊行し、『現代社会学理論研究』第8号、「現代社会学理論の焦点 日韓における社会理論の現在と未来」2014年3月31日、pp.107-116を刊行した。

平成26年度、2014年度には、7月7日～11日の間、ソウル大学で開催されたU.ベックを中心とした国際会議に出席し、visual turn現象とcosmopolitan化をめぐる議論について、報告を行うと共に、セッションの司会等に従事した。ベックをヘッドとした国際共同研究チームのメンバーとしての研究活動の一環でもあり、これはコスモポリタン化と気候変動を全体テーマとしている。

7月13日～19日、世界社会学会大会が横浜で開催され、組織委員会のメンバーとして大会運営にあたった。特にJ.Alexander教授をはじめとしたイェール大学文化社会学センターの研究たちとの共同研究をこの機会をとらえて前進させた。

11月20日～24日、国際社会学会会長であるM.Abrahamを神戸大学に招聘し、日本社会学会大会(於神戸大)において講演会を主催した。日本社会学会の国際化をテーマとし、現代社会分析と社会学の理論状況につき講演以外にも意見交換会を開催した。

2015年1月30日～2月2日、香港大学に赴き、アジアにおけるvisual turnの現状につき、特に香港の場合の調査研究と資料収集にあたった。2月15日～24日、ブダペストのELTE大学、ハンブルク大学、ヤゲウォ大学(ポーランド)を訪問し、欧州におけるvisual turnの理論と現象との実態につき調査研究にあたり、資料を収集した。3月16日、17日、ソウル大学において開催された国際ワークショップ“The Challenge of Risk Society and the Future of East Asia: Searching for Participatory Risk Governance”に参加し、アジアにおけるvisual turnの韓国のケースに関する調査研究と資料収集にあたった。

平成27年度、2015年度には、成果論文の一つとして、The Consequences of Global Disasters,という著作の1章としてFrom ‘This is Not a Pipe’ to ‘This is Not Fukushima’: Global Disaster and Visual Communication という論文を寄稿していたが、同論文は2016年5月初めにRoutledgeより出版された。

4月には、香港大において第一回のGlobal and Creative Industry学会で基調講演した

(Subcultures in Flow, Visual Solidarity and Trauma in East Asia)。6月、南オーストラリア大の著名な社会学者であるA・エリオット教授の招へい講演を神戸大で開催した。7月、駒沢大学で開催された文化経済学会主催の年次大会において招待講演を行った(「ポピュラー文化、ヴィジュアル・ターン、文化産業 ト라우マとコスモポリス化のなかの東アジア」)。9月、ブカレスト大学において招待講演を行った。Development of Japanese Studies in the World and New Program at Kobe University。10月、オーストラリア社会学会大会に招へいされ基調講演を行った(Regional and Global Sociology: An Asian Perspective)。11月オーストラリア社会学会会長であるH・シュタウブマン教授を神戸大に招へいし、講演会等を開催した。11月末、ヤゲウォ大学比較文明研究所長であるM・クデルスカ教授を神戸大に招へいし講演会を行った。2月、ブダペストのELTE大学で開催された中欧・東欧日本研究者会議に出席した。3月、エクス・マルセイユ大学と在マルセイユ日本国総領事館の共催による講演会に招へいされ一般市民向け講演および学会での学術講演を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

・油井清光 『現代社会学理論研究』第8号、「現代社会学理論の焦点 日韓における社会理論の現在と未来」2014年3月31日、pp.107-116。

[学会発表](計9件)

・油井清光 2013年3月20日、オーストラリア・アデレード市の南オーストラリア大学においてシンポジウムで報告すると共に、その後同大学のホーク研究所において講演した。Visual Communication in the Case of Fukushima。

・油井清光 2013年6月日本観光研究学会関西支部・第10回意見交換会で講演した。「日本サブカルチャーコンテンツの可能性」

・油井清光 2013年9月 European Association for Japanese Studies の大会(於京都大学)での報告。Visual Turn of Sociology and Japanese Animation and Manga。

・油井清光 2014年7月8日 ソウル大学 Visual Turn and Cosmopolitanism

・油井清光 2015年4月 香港大において第一回のGlobal and Creative Industry学会で基調講演。Subcultures in Flow, Visual Solidarity and Trauma in East Asia。

・油井清光 2015年7月、駒沢大学で開催された文化経済学会主催の年次大会において招待講演を行った。「ポピュラー文化、ヴィジュアル・ターン、文化産業 トラウマとコスモポリス化のなかの東アジア」。

・油井清光 2015年9月、ブカレスト大学において招待講演を行った。Development of Japanese Studies in the World and New Program at Kobe University.

・油井清光 2015年10月、オーストリア社会学会大会に招へいされ基調講演を行ったRegional and Global Sociology : An Asian Perspective.

・油井清光 2015年3月、エクス・マルセイユ大学と在マルセイユ日本国総領事館の共催による講演会に招へいされ一般市民向け講演および学会での学術講演を行った。

Cultural Industries and Intellectual Property Innovation: Flows in between Europe and Japan

およびResilience of Port City Community in the Transition of Japan.

〔図書〕(計2件)

・油井清光「現代社会のヴィジュアル・ターンと東アジアの文化変容」『モダニティの変容と公共圏』(京都大学学術出版会)2014年1月、pp.243-268

・油井清光 The Consequences of Global Disasters,という著作の1章として From 'This is Not a Pipe' to 'This is Not Fukushima' : Global Disaster and Visual Communication という論文を寄稿。2016年6月に Routledge より出版された。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 油井清光(YUI Kiyomitsu)
神戸大学・大学院人文学研究科教授
研究者番号:10200859

(2)研究分担者 鈴木健史(SUZUKI Takeshi)
目白大学・短期大学部教授
研究者番号:90310234

速水奈名子(HAYAMI Nanako)
神戸大学・大学院人文学研究科研究員
研究者番号:70467645

(3)連携研究者

()

研究者番号: